

「2015年ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクール参加報告書」

京都大学法学部5年 南 保光

私はこのプログラムで9月13日～9月27日の間ハノイに滞在し、現地の大学で講義を受け、現地の大学生との交流を行った。

私は報告についてまず、学習成果について述べたい。学習成果については大きく2点ある。一つはベトナムと日本の関係の歴史や、ベトナムの文化や社会などについて見識を深めることができたこと。一つはベトナムの人々から敬意を持たれている日本の一員としてより努力していこうと考えるようになったこと。前者について、私は特に印象に残っていることが二つある。一つ目は江戸時代にはすでに貿易を通して日本とベトナムの関係があったということだ。そして二つ目はベトナム人が独立のための戦争以降約30年もの間経験してきた戦争は今のベトナム社会に大きな影響を与えていることだ。後者については、日本のODAの協力をはじめ、日本のモノ作りや文化について敬意を持ってくれている学生と多く接し、その学生たちの真摯な学習態度を見たことで、彼らにこれからも敬意を持ってもらえる日本という国を作っていきたいと感じた。そのために自分自身さらなる知識や見識を深める努力をしようとするようになった。

次に海外での経験について述べたい。海外での経験として私は二つ挙げたいと思う。一つは現地の学生との交流を通して得た気付き、一つは街中で気付いた発展途上国としてのベトナムの現状だ。前者については、現地の学生たちは自分たちの国がまだまだ発展の途上であるという意識を持って、より自分を高めようとして日本での勉学を希望していた。私は彼らとの交流を通して自身の生活や勉学の状況を振り返り、より努力を重ねていこうと考えるようになった。そして、後者について、特にインフラ整備の状況や衛生環境について日本と大きく異なっていたことに驚いた。私自身ひどい渋滞や腹痛を経験した。日本で当たり前になっていたインフラや衛生環境の大切さを実感し、発展途上国へのインフラ整備等の支援の重要性に気付いた。

そして、プログラムの内容について述べたい。今回のプログラムは主に4つの要素で構成されていたと思う。ベトナムに関する講義の受講、現地学生の授業への参加、実地研修やシンポジウムへの参加、そして現地学生との日越交流だ。これらについて良い点と悪い点について報告したい。良い点についてはそれぞれのプログラムでベトナムや日本についてそれらの関係やそれぞれの国の中身についての見方が変わったり、見識を深めることができたりと非常に有意義だった。特にベトナムという国が急速に経済的に発展している反面、日本と同様に少子高齢化、都市への人口や会社の集中といった問題に非常に速い速度で直面していることを知ることができたことは有意義だった。一方で悪い点については現地の大学との意思疎通が十分でなかったために、授業内容の変更や、事前の打ち合わせの必要性、教室変更などが学生に伝わらなかった。この点は次回に改善すべき点だと考える。

最後に、進路への影響について述べたい。私はすでに就職活動を終えたが、働くうえで東南アジアという国へより注目していきたいと考えるようになった。なぜなら、依然として発展する余地を残しており勢いのある国々だと考えられるからだ。また、学生との交流を通してより日本の発展に寄与したいとも考えるようになったので、そのために自分ができることを見定めていきたい。